



公益社団法人 日本体育協会公認
茨城県スポーツ指導者協議会

会 報

第 76 号

平成 30 年度 3 月 15 日

発行人

茨城県スポーツ指導者協議会

会 長 照 沼 一 美

事務局 〒 306-0204

古河市下大野 1463-4

事務局長 鈴 木 義 夫

TEL・FAX 0280-92-4555

会員数 1,392 名 (H30.3.1 現在)



全県研修会（平成 29 年 8 月 6 日（日） 水戸市・茨城県農村研修館）

公益社団法人 日本体育協会公認
スポーツ指導者のために

資質向上と
活動の推進を

連帯感を深め
組織的活動を

目 次

会長あいさつ	2
事務局長の活動報告	2～3
茨城県体育協会あいさつ	3
平成 29 年度 (公財) 日本体育協会表彰受賞者あいさつ	4～5
支部だより	6～8

会長ごあいさつ



茨城県スポーツ
指導者協議会会長
照沼 一美

茨城県スポーツ指導者協議会会員の皆様、ご機嫌如何お過ごしでしょうか。平成三十年度を迎えるにあたり、新しい年度が我々スポーツ指導者として、より良い年になりますよう、願いを込め茨城県スポーツ指導者協議会会員の皆様にご挨拶申し上げます。

平成二十九年度事業も予定通り滞りなく、全ての事業が終了致しました。これらは役員の皆様の献身的な努力と、会員皆様のご協力によるものと感謝の意を表し御礼を申し上げます。

本協議会の主事業である登録更新時の必須義務研修である全県研修会においては、中央支部主管として盛大に実施いたしました。更に支部単位の更新時義務研修会は県西支部、鹿行支部が其々に実施いたしました。其々に支部の特徴を演出し、役員の皆様のお力が前面に出されて、参加者のニーズに応えることが出来たことと確信いたしております。

毎年恒例行事になりました、公益財団法人日本体育協会公認スポ

ーツ指導者の表彰式典が、去る平成二十九年十二月九日 東京都港区高輪T K Pガーデンシティ品川ボールルームにおいて、公認指導者の全国研修会に先立ち開催されました。本県からの受賞者は以下の通りです。

▽県スポーツ指導者協議会推薦者

遠藤 守様(県南支部推薦)

大竹 幹夫様(県西支部推薦)

横須賀良子様(中央支部推薦)

杉谷 良子様(中央支部推薦)

▽各競技団体推薦者

田所 洋子様(山岳連盟推薦)

福田 史子様(エアロビクス連盟推薦)

逆井 悦子様(水泳連盟推薦)

計七名の皆様が受賞されました。

誠におめでとうございます。

今後更なるご健勝のうえご活躍をされますようご期待申し上げます。

式典後の公認スポーツ指導者全国研修会は、特別講演として、熊本大学教育学部准教授苦野和宣様による「スポーツ指導に役立てる哲学思考」(本質を見抜くために)

講演としてスポーツ庁参事官付企画官の南野圭史様による第二期スポーツ基本計画と公認スポーツ指導者への期待

ワークショップは日本体育大学体育学部体育学科教授伊藤雅允様によるこれからの社会をリードする

スポーツ指導者へ

平成二十九年度全国スポーツ指導者連絡会議(代表者会議)が十二月八日(金)T K Pガーデンシティ渋谷において開催されました。

*二十一世紀の国民スポーツ推進方策・スポーツ推進二〇一八・

(仮称)について

*公認スポーツ指導者制度の改定について

*日本スポーツ界における暴力行為の根絶について

講演 望月浩一郎氏：弁護士

関東ブロックスポーツ指導者協議会「結成記念講演会・式典を平成三十年一月二十一日岸記念体育館を会場に開催し関東一都七県の情報の共有化と結束を確認致しました。

茨城県スポーツ指導者協議会といたしましたは県体育協会の指導の下、義務研修会を中心に、機会ある毎に「スポーツ界における暴力根絶」を訴えてまいります。

新たな年、平成三十年度が有資格者それぞれの皆様にとって、益々ご活躍されますよう、ご記念申し上げます。終わりにご愛読いただいたいております、茨城県スポーツ指導者協議会会員各位の益々のご活躍を、更に茨城県スポーツ指導者協議会への格別なる、ご指導ご

鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成二十九年度
本協議会活動報告

茨城県スポーツ
指導者協議会事務局長
鈴木 義夫

平成二十九年度茨城県スポーツ指導者協議会の事業活動をご報告申し上げます。

今年度の本協議会総会は、平成二十九年四月二十三日(日)に水戸市内原中央公民館で開催して、本協議会照沼会長より総会席上に於いて、功労賞に県西支部長推薦で山中 寛様(八千代町) 中央支部長推薦で杉谷良子様(東海村)が受賞いたしました。

平成二十八年度事業報告及び収支決算報告並びに平成二十九年度事業計画案及び収支予算案、次年度本協議会役員選出案が全会一致でご承認が得られました。

本協議会の主なる事業は、義務研修「全県研修会・地区研修会」を茨城県内の三か所会場で開催して、全県研修会を中央支部及び研修委員会が主管で、平成二十九年八月六日(日)に水戸市・茨城県農村研修館で開催に参加申込者は百八十名に対し、受講者は百六十四名「会員百三十三名・未会員三十一名」でありました。

県西地区研修会は県西支部主管

で、平成二十九年十一月十二日（日）に下妻市・千代川公民館で開催し、参加申込者は百二十四名に對し、受講者は百二名「会員八十二名・未会員二十名」でありました。

鹿行地区研修会は鹿行支部主管で、平成三十年一月二十一日（日）に神栖市・平泉コミュニティセンターで開催し、参加申込者は百十一名に對し、受講者は八十八名「会員七十八名・未会員十名」でありました。

本協議会は会報を毎年二回「三月末及び七月末」に広報委員会が主管で、原稿依頼、研修会取材、文書校正など編集後に印刷製本が出来上がり次第に本協議会事務局から各支部を通じて、会員皆様へ無料で会報を配布しており、更に各支部が独自に研修会・講習会の開催と支部便りを発行しています。

茨城県に登録する（公財）日本体育協会公認スポーツ指導者は、平成二十九年十月一日現在登録者数は三千七百二十二名であり、本協議会の支部別に公認スポーツ指導者（有資格者）及び会員数は、「県北支部有資格者三百十一名・会員数百六十二名」「水戸支部有資格者三百九十二名・会員数百六十七名」「中央支部有資格者六百二十九名・会員数三百二十一名」「鹿行支部有資格

者百九十九名・会員数百一名」「県南支部有資格者千六十四名・会員数四百六十六名」「県西支部有資格者三百七十九名・会員数百七十九名」「県外地区有資格者十六名・会員数十四名」で、有資格者合計は、二千九百九十名（但しスポーツリーダーは除く）会員数合計は千四百十一名で会員比率四十七・十九％前年度同月より百三十三名の会員増加になりました。

公認スポーツ指導者は、資格取得後に義務研修を三年六か月以内に一回以上の研修会を受講した実績が必要であります。本協議会が主催する義務研修「全県研修会及び地区研修会」を受講された方々を（公財）茨城県体育協会から（公財）日本体育協会に書面で提出致します。その後、資格更新の案内通知が（公財）日本体育協会から有資格者の皆様に送付されます。

本協議会は、毎年四月及び十月に資格更新が完了された後に本協議会から会員入会のご案内を致しますので、積極的に本協議会への会員入会のご協力をお願い申し上げます。

今後とも茨城県スポーツ指導者協議会の事業運営等に会員皆様の格別なる御理解とご支援を賜りたくご協力を宜しくお願い申し上げます。

茨城県体育協会あいさつ



茨城県体育協会
事業課長

南雲 康司

時が流れ、その時々の方々の考え方や常識も常に移り変わっています。その時代に合わせて、変えていかねければならないこと、普遍的なもので変えてはならないこと、そのバランスを取って物事を考えていかなければならないと思っています。

代表的な時代の流れでは、天皇陛下のご退位が現実となり、元号が変わります。新元号元年に本県で「いきいき茨城ゆめ国体」が開催されます。県内全四十四市町村で、正式競技からデモンストレーションスポーツ競技まで、それぞれ実施されます。スポーツに関係する私たちは、それぞれの地で大いに力を発揮するべき機会であり

ます。続いて翌年には、東京オリンピック・パラリンピックが開催され、県内でもカシマスタジアムでサッカー競技が行われます。これまた、スポーツへの関心が高まる機会になるでしょう。

一方、学校では、部活動指導が「ブランク部活動」などと呼ばれ、教員が苦勞している様子が浮き彫りになってきました。部活動は、日本におけるスポーツの普及に貢献するとともに、学校生活におけ

る教育にも大きく寄与してきたと思います。しかし、教師の本来の中心業務である授業への影響や勤務時間の大幅な超過については問題視し、配慮されなければなりません。

今後、部活動現場に教員以外の「部活動指導員」が県・市町村・学校の規定によって配置されることになってくるでしょう。これには、日体協公認スポーツ指導者資格をもった人材の力が必要になると予想されます。

今まで以上に、資格取得者はスポーツ活動の現場に立つことが多くなり、その責任も重いものになると考えられます。

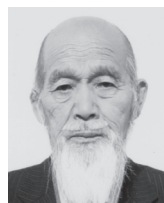
「学ぶことをやめたとき、教えることをやめなければならぬ」というコーチ・指導者に向けた金言があります。指導現場に立つのであれば、その時代や教える対象者によって、常に学ぶ姿勢をもち続ける必要があるのです。古い知識、過去の実績や経験に胡座をかいているようでは、指導者自身の成長はありません。そして、そのような指導者に指導される対象者はたまったものではありません。人の前に立つ者は、常に謙虚で、先進的でなければならぬと思っています。

この先数年、スポーツを取り巻く環境が大きく変わるでしょう。茨城県スポーツ指導者協議会には、組織として柔軟な考え方をもち続け、時代の変化に対応できるスポーツ指導者の育成に尽力していただくことを願っております。

平成
29年度

(公財)日本体育協会表彰

受賞者あいさつ



阿見町

遠藤 守

半世紀を超える昔・昭和三十九年より地域青少年のスポーツ指導に携わり、本日に至るまで連綿と継続し実践出来た事に対して深く感謝の念で一杯です。此度、都道府県体育（スポーツ）協会推薦により公認スポーツ指導者等表彰を顕彰して頂き深く感謝し感銘を受けた次第であります。共に歩んできた同僚後輩や先輩諸氏の皆様方に厚く御礼を申し上げます。半生を振り返って思うに、人に物を教えるという行為は、逆に己が学びの一環であり、被教育者から教えられる事柄が沢山ありました。人間力の向上なくして競技力の向上なしと言われますが正しく其の通りであると実感いたします。私はこれまで己の技術の向上と人間形成を心掛けて参りました。平成二

年に自衛隊を定年退官し同時に私設道場「守道館」を設立し、爾来銃剣道、短剣道、抜刀術を指導し現在に至っております。その間江戸崎地区の保護司会長、茨城県銃剣道連盟副会長、全日本銃剣道連盟指導員等を歴任し、平成二十七年秋の叙勲では旭日単光章を拝受いたしました。私の指導法は、先ずやる気にさせる。やつて見せ、説明をして納得させる。初心者に多くを求めず、反復演練し、感を養い辺縁系神経、動物的神経を鍛えて習性化させ技として体得させます。練習方法においては、

先ずは空間動作でしっかりと基本動作を理解体感させた上で対物動作による指導を行い対人動作に至る、という進め方で指導をして参りました。指導方法の根幹を考察するに、スポーツ指導の哲学的本質は「一般化の罟」に囚われる事無くあるべきだという事だと思えます。教育において、褒めるべきでなか叱るべきなのか、教育は子供の為か社会の為か、事の本質を日々自問し朝鍛夕練百錬自得を理念に精進し続けたいと思いま

す。
最後にこれからも皆様方のご指導ご鞭撻の程、宜しくお願い致します。



筑西市

大竹 幹夫

この度、平成二十九年度公益財団法人日本体育協会の公認スポーツ指導者等表彰式が、東京都港区高輪のTKPガーデンシティ品川で行われ、表彰楯を受賞賜りました。ご推薦頂きました茨城県体育協会、茨城県スポーツ指導者協議会・茨城県スポーツ指導者協議会県西支部の皆様方に心より感謝申し上げます。

スポーツ関係の役員として携わって四十年余りになりますが、日本体育協会公認スポーツ指導員の資格を取得してから、スポーツに對する地域における活動が大きく変わった様に思います。

県体育協会や県スポーツ指導者協議会等主催の研修会や講演会に参加し、スポーツ組織の設立・普及・指導に参画する上で多くを学ぶことが出来ました。

保有資格はバレーボール上級指導員ですが、茨城県スポー

ツ指導者協議会・筑西市体育協会・市スポーツ推進員・市総合型地域スポーツクラブ（ASKスポーツクラブ館西）等に所属し、ちくせいマラソン大会・メダリストやプロ選手による講演会・各種イベント活動・定期活動などを実施しております。そのような交流の中で人間関係の構築や健康増進、スポーツの楽しさが生まれ、やがて身近な所でアスリートの誕生を夢見る一人です。

これからも、市民と行政が一体となつて連携しながら、みんなが共有できる楽しいスポーツを目指して活動して参りたいと思いますので、ご指導ご鞭撻を宜しく願ひ申し上げます。

ひたちなか市
横須賀 良子

この度、日本体育協会公認の全国スポーツ指導者表彰を受賞いたしました。茨城県体育協会の県スポーツ指導者協議会の会長様はじめ事務局の皆様方に心よりお礼申し上げます。日頃は中央支部の役員の皆様には大変お世話になっております。当日は全国指導者二〇二名の

中の一人として表彰式に出席。ヨ
ーコゼッターランド（指導者育成
専門委員会委員長）様の挨拶から
始まりました。「逆境における強
さ」「不可能を可能に」また来賓
の方々の挨拶があり、表彰者代
表の挨拶を経て、立派な楯を頂い
てきました。感謝感激で胸いっぱい
になりました。その後、特別講
演で演者苦野一徳（熊本大学教
授）様の「スポーツ指導に役立て
る、哲学的思考、本質を見抜くた
めに」と題して話されました。哲
学は意味のない役に立たないもの
ではなく、物事や問題の「本質」
を捉えることでその問題を解き明
かすための「考え方」を示すもの
「本質洞察に基づく考え方」教育
は子供のためと思ひ思考の幅を持
ち「事実」から「すべし」を導か
ない「命令」の思考ではなく、「す
べし」はいったん側において信念
にとられすぎない対話にして本
質を引き出す。「共通関心」「共通
了解」を生み出す。少し難しそう
な話でしたが以外と解りやすい説
明で魅了されあつたという間の貴重
な時間でした。最近大人の方々に
教える事が多く人となり洞察す
る事は大変難しいのですが、少し
でも本人に合った指導を心がけて
います。満足して楽しいと思つて

下さる指導を。それには自分を磨
き人間の幅を少しずつ広げて行け
る様に、常に勉強し対話が出来
る様に、諸先輩の方々の体験談にも耳
を傾けて勉強させてもらい、充実
した日々が送れたら幸せかしらと
思います。
どうぞこれからも皆様のご指導
宜しくお願い申し上げます。



東海村

杉谷良子

平成二十九年年度公認スポーツ指
導者協議会全国研修会は、昨年十
二月九日「TKPガーデンシティ
品川大広間」で開催されました。
研修会に先立ち、公益財団法人日
本体育協会公認スポーツ指導者表
彰式が行われ、全国二〇二名の
中の一人として日本体育協会常任
理事のヨコゼッターランド様
より大変名誉ある表彰楯を頂きま
した人生後にも先にも二度とある
ことではないと感無量でございま
す。

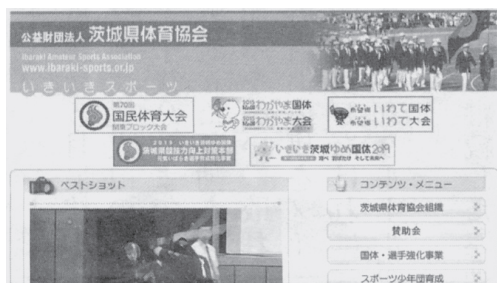
これもひとえに、ご推薦を頂き
ました茨城県体育協会、茨城県ス
ポーツ指導者協議会、並びに同協
議会中央支部の方々のご尽力のお
蔭と心より感謝を申し上げます。

表彰式の後行われた特別講演で
は「スポーツ指導に役立てる「哲
学的思考」」「本質」を見抜くた
めに」という演題で哲学者等々
沢山の肩書をお持ちの熊本大学教
育学部准教授の苦野一徳先生の素
晴らしいお話を聴く事が出来まし
た。一言で講演内容を紙面に記す
るのは難しいのですが、スポーツ
指導者としてより良いスポーツ指
導の有り方を考える時に、その「本
質」を捉え「哲学的思考」で議論
することが大事である事、より良
い答えを導き出すためには対峙す
るのではなく立場上は上下関係が
あつたとしても対等でなければな
らない事等、沢山のヒントを頂い
たと思います。

日常生活に於いて「哲学」とい
う言葉すら頭を過ることも口にす
る事もなかった中で、先生のお話
を聴いてからは「哲学」は常に身
近になればならない大事なもの
になったように思います。

二〇一九年「いきいき茨城ゆめ
国体」二〇二〇年「東京オリンピ
ック、パラリンピック」の成功を
お祈りし、微力ながらそのお手伝
いが出来たらと思います。今後と
も皆様のご指導ご鞭撻宜しくお願
い申し上げます。

ホームページ開設



<http://www.ibaraki-sports.or.jp/>



お知らせ

住所変更及び改姓した場合必
ず変更届を連絡して下さい。

【連絡先】〒306-0204
茨城県スポーツ指導者協議会
事務局 古河市下大野1463-4
事務局長 鈴木義夫

TEL 0280-92-4555
FAX 0280-92-4555

支部だより

県北支部

支部長
梅村 恒雄

前回、今年度の総会についてご報告しましたので、その後の事業の進捗状況についてご報告します。

【平成二十九年事業実績】

四月 三日定例会

県常任理事会報告

さくらロード助勢反省

支部総会記念事業検討

会報四十九号刊行

五月 八日定例会

県理事會総会報告

友の会総会報告

三十周年記念事業準備
支部会報原稿依頼
五月二十一日支部総会・記念式典
六月 五日定例会

支部総会の報告・反省

記念誌発送準備

七月 三日定例会

県協議会報告

支部会報校正

八月 七日定例会

三十周年記念誌発送

県会報・支部会報発送

九月 四日定例会

三十周年事業決算報告

支部研修会対策
友の会報告
県協議会報告対策

十月 二日定例会

支部実技研修会対策

支部役員研修会対策

女性センター祭対策

十一月六日定例会

支部役員研修会報告

県常任理事会報告

支部実技研修会対策

友の会報告

十二月四日定例会

支部研修会対策

女性センター報告

支部会報原稿依頼

一月二十八日定例会兼懇親会

県常任理事会報告

懇親会

二月 五日定例会

県協議会報告事項審議

地区研修会対策

総会・実技研修会対策

三月 五日定例会

総会・実技研修会対策

今後は、平成二十九年度の反省と平成三十年度の事業計画について議論し、役員一同精一杯頑張りますので、会員の皆様のご支援、ご協力をお願いいたします。



水戸支部

支部長
吉田 広光

自然 だいぶ春らしくなってきました。昨年度第七十五号会報にて支部長だよりを発行させて戴き、
会員の皆様、副支部長古杉様に御礼を申し上げたいと思っております。

水戸支部では二十九年度に救急救命の講習を開催の予定でありましたが、残念ながら私の身体がまだ思うように動けませんでしたので、実施することができませんでした。一日も早く怪我を直して会員皆様と共に活動をしたいと考えております。

・気力と体力は自分で治せ。

九死に一生を得て私を支えてくれたのは主治医の方々です。症気は医者が治す。「気力と体力は自分で治せ」の一言であった。足腰の運動は先送りして、目標を立てれば切磋琢磨励まし合い、新たな挑戦をして見たいと考えました。

本年度より日本体育協会も改正の時期にきています。茨城県スポーツ指導者協議会も競技団体も改正の時かも知れません。
意義のある対応が必要になります。

平成三十年全県研修会が、八月十二日に水戸支部主幹で行われる

予定です。十月二十八日には第二回目の水戸マラソン大会が予定され、平成三十一年には茨城国体（翔べ羽ばたけそして未来へ）が行われます。

最後になりましたが、いきいき茨城ゆめ国体選手やボランティアをはじめ、国体に参加するすべての人に活気にあふれ活躍できる夢のあるスポーツの祭典のすばらしさを感じてもらえたらと思っております。開幕は九月二十八日からです。

気力と体力は自分で治せの話しは頭の中に飛び込んで九死に一生を得た命、反省することばかりです。今後の計画事業に期待し、活動に生かしていく所存であります。

皆様に感謝申し上げます。

中央支部

事務局長
野々村 律子

平成三十年度を迎えるにあたり中央支部としては、四月一日に支部総会を開催して、年度ごと致します。六月初旬に恒例の救急救命講習会を計画して、AEDの扱い方とか、いろいろ繰り返し学び、仲間・子供達・家族・ご近所さん達が有事の時に、初動処置に万全が期せるように、救急車が到着するまでの貴重な時間にできる

限りの事を、身体に刻み込んで置きたいと思っています。

来年度は日本体育協会公認指導者資格更新事業の研修会を開催する年です。全県研修会の期日を考慮して、日時を決めて、笠松運動公園多目的室に於いて実施する予定です。講演Ⅰ（トレーニングの科学）は藤枝先生から、私達指導者に意義ある講話をお願いします。講演Ⅱを何にするかは皆で考えております。

研究協議では、この頃頻繁に体感する事の多い地震や災害について、「ワスレナイ・三・一一」の想いを風化させる事がないように、今一度心に刻むよい時期かなと思います。準備したいと考えております。

私達指導者はお陰様で、各々が生き甲斐の有る活動を続けられているという方が多いのではないのでしょうか。それで良い形で、次世代への引継ぎをしていきたいと思っています。

今出来る事を、出来る形で、出来るだけ楽しく続けて行きたいものです。

誰かに喜んで頂けることに感謝しながら！

鹿行支部

副支部長

君和田 治也

鹿行スポーツ指導者協議会行事として二年に一回、有資格者義務

講習開催のお手伝を行っています。二十九年度は一月二十一日に神栖市において開催しました。講演内容は、東京女子体育大学体育学部教授、阿江美恵子氏による「クールな指導者のための指導法の工夫とアンガーコントロール」の内容として、早期の専門化でなく多様なスポーツ活動を楽しく指導するのが重要であり、変化にとんだ練習が効果がある事、そして、双方通行のコミュニケーションの取り方などを講演して頂きました。

講演Ⅱとして、茨城県ウエイトリフティング協会副会長兼理事長福田太公氏による「茨城国体とアスリート育成」についての講演をして頂きました。

内容としては、すべてのスポーツは瞬発力が必要であり、特に体の筋肉として一番主力な太もものトレーニングが大事な事、そしてスピードを意識してジャンプ動作を取り入れてくださいとの内容を熱心に講演していただきました。

参加者は110名を超え、鹿行地区としての参加者は約五十名、他地域や県外の方は、六十名程参加されこれからの指導方法等の情報を身に着けることが出来たと感じます。

二〇一九年には茨城国体とラグビーワールドカップが開催されます。スポーツを行う喜び、見る喜

びを支える指導者として何か役立ててくれればいいなと思っています。



鹿行地区研修会（H30.1.21（日） 神栖市）

県南支部

支部長

櫻井 孝之

平成二十九年度は県南支部の活動も県南支部広報の発行だけに終わり会員の皆様には、申し訳なく思っております。現在有資格者数は、全県で二九一三名会員数一四一二名県南支部の有資格者数一〇三四名会員数四七六名程です。

平成三十年度は十一月県南地区の阿見町本郷ふれあいセンターで義務研修会が開催される予定です。会員の皆様のご協力をお願い致します。

十二月九日公認スポーツ指導者全国研修会が開催されました。県南支部の遠藤守理事が全国表彰されました。県南支部の結成時から、永年にわたり理事役員として活動を戴いております。おめでとうございます。

平成三十年度から、有資格指導者にとっても大きな変革の始まりの年度になるのではと思われまます。指導者からコーチへと呼称だけではなく、意識改革の伴う変革が求められてくる時代になってくると思われまます。スポーツ界に留まらず、教育の現場や、ビジネスの分野でも、「考える力」が求められています。自立と自律できるアスリートの育成こそが目標になると思います。

県西支部

事務局長
近藤 康雄

平成二十九年度活動も終わりに近づいています。県西支部、下期の活動としては隔年に行っている平成二十九年度茨城県スポーツ指導者研修会（県西地区研修）を平成二十九年十一月十二日（日）に下妻市千代川公民館で開催いたしました。県西支部では下妻市での開催は初めてです。大変驚いたのは下妻市教育委員会生涯学習課スポーツ振興課の方々の対応でした。会場使用料、控室、ホール（昼食用）全て、無料。又、舞台上の横看板制作、講演内容看板、会場前の案内看板等、全て無料で作っていただきました。私も今回初めて行政間の違いを知る事になりました。話題を研修会に戻しますが事前参加申込百二十四名（会員九十六名非会員二十八名）当日受講者百二名（会員八十二名非会員二十名）受講率は八十二・二五％となりました。午前中は大塚製菓様の情報提供（熱中症予防他）講演Ⅰでは茨城大学加藤敏弘教授による「スポーツの指導方法」（モラルに反した指導をしない、させない、コーチングの実際）と題して加藤先生が所属している日本バスケットボール協会の取組を例に挙げ（モラルに反した指導をしない、させない、見過ごさない）あなたの指導をもう一度見直してみませんかを身近な体験談と交えておもしろ、おもしろく興味がもたれる話をして下さいました。又、プレーヤーに対して失敗した時、日本では失敗しない人を評価するが海外では失敗しても良い、成功すればと考え方の違いを教えて頂きました。私達指導者はどうしても結果を求めてしまう。指導者はプレーヤーに対してあくまでもサポーターであれと言う事を再認識させられました。午後講演Ⅱでは田中守先生による「指導者に必要なコミュニケーションスキル」と題して話をさせて頂きました。午前中の講演を活かした内容でプレーヤー一人一人いけば百人の考え方がある。一方的な指示命令ではなく質問提案型の指導でプレーヤーが自分から進んで行動し楽しんで行動させる方向で指導する。自発的に行動させる為には最後まで話を聞く事。指導者は聞き役になれ。一人一人の良い所だけをピックアップして伸ばす。共通認識を持ち考え工夫する環境を作るのが指導者であると教えられました。指導者は常に自己研鑽に努める事も改めて感じました。

茨城県体育協会の方々に、遠路お越し頂きました。研修委員長、広報委員長、県西支部役員の方々

大変ありがとうございました。今回は研修会の内容を紹介しましたが、平成三十年度は県西支部独自の研修会を開催したいと考えています。



県西地区研修会（H29.11.12（日） 下妻市）

会員入会協力への
おねがい

会員の皆様、有資格者のお仲間、会員入会をお勧めいただける様、ご協力をお願いいたします。

編集後記

第七十六号会報発行に当たり皆様に原稿を賜り心から感謝申し上げます。

ご愛読いただける会報となるよう努力してまいりますので、皆様の忌憚のないご意見をお寄せ頂きたいと思ひます。

今回の会報七十七号発行は
平成三十年八月（予定）

広報委員会

広報委員長

君和田 治 也

広報副委員長

高野 照代（鹿行支部）

広報委員

佐藤 マツ（県北支部）

岡野 秀一（水戸支部）

柏葉 光子（中央支部）

櫻井 孝之（県南支部）

角谷 俊二（県西支部）

鈴木 義夫（事務局長）